



うすい

雨水（18日）… 池の横のコブシのつぼみがふくらみ始めます …

雨水は、空から降るものが雪から雨に変わり、氷や雪が解け始める頃のことです。山に降った雪がゆっくりと解けて、田畑を潤すため、この時期に農耕を始める時期の目安とされてきたそうです。幼稚園の畑で育てた冬野菜もそろそろ収穫してみようとしています。

<霞始靄 かすみ はじめて たなびく 2月23日～27日>

雨水の次候は「霞始靄」です。春霞がたなびき始める頃。たなびくとは、霞や雲が層をなして薄く漂っている様子を言うのだそうです。

<誕生会の司会を教えてください>

1月の誕生会を前に、年中児たちは、年長組のお兄さんお姉さんたちが小学校に行ってしまうらしいと気付いたようです。そうすると、誕生会の司会は自分たちがすることになるはずだからと先生とみんなで相談し、年長組に司会の仕方を教えてほしいとお願いに行きました。優しい年長児は、「じゃあ、明日教えてあげるね」と引き受けてくれました。翌日、ペア2～3組に分かれて、ひな壇への登り降りのし方やお辞儀の仕方のお手本を見せてもらい、挨拶の言葉を教えてもらう姿がありました。

<当番の仕事も教わって>

しばらく数人で練習した後、みんなの前で言ってみた際には、とても緊張していた年中児も、翌日の1月の誕生会では、教えてもらった年長児が横についてくれていたので、練習の際よりもリラックスして、年長児と一緒にひな壇に登って、挨拶の言葉も揃えて言うことができました。

このやり取りも大きなきっかけとなり、その後もうさぎの世話や靴箱の掃除などの当番活動をしている際に、教えてもらう関わりが増えていきました。

<2月の司会は自分たちだけで挑戦！>

そして、2月の誕生会は、年中児たちは司会を自分たちだけで挑戦してみました。休みが多くて一人で挨拶することになった子もいましたが、前回教えてもらったことをよく覚えていました。年長児の中には、自分のことのように心配していた子もいました。そんな年長児から「上手だったよ」と褒めてもらって、自信を付けた様子でした。司会の仕方だけでなく、優しい心も引き継がれていったようです。



誕生会の司会を教えてくださいとお願いに



年長児のお手本はさすが、カッコいい



教わったばかりで緊張しながら



誕生会はペアの年長児と一緒に司会



1月の経験を生かし、2月の司会は年中児だけで挑戦して大成功！ 出し物は歌が上手な年長児のすてきな歌！